

マーケット概況（2022年12月）

12月の債券相場は、パウエルFRB議長が利上げペース減速を示唆したことから買い先行で始まった。6日の30年債入札を通過すると超長期債は堅調に推移し、市場予想を下回る11月米国消費者物価指数を受けて、30年76回債の利回りは1.380%まで低下した。しかし、利回り低下のペースが急だったことや、FOMCにおいて2023年末時点の政策金利見通しが切り上がったことで、15日の20年債入札は低調な結果となり、超長期債は反落した。20日の日銀金融政策決定会合では、事前予想に反して長期金利の変動幅が「±0.25%程度」から「±0.5%程度」に拡大されるなど、金融政策の変更が発表された。これを受けて0.250%で推移していた10年368回債の利回りは2015年7月以来となる0.480%まで、5年154回債の利回りは2013年9月以来となる0.260%まで上昇したほか、2年444回債の利回りは2015年3月以来となる0.050%を付け、約7年ぶりにプラス圏に浮上した。その後は、日銀が臨時の国債買入オペや指値オペを相次いで実施したことから、中長期債の利回り上昇には歯止めがかかり、10年368回債は0.410%で取引を終了した。一方、臨時買入オペの回数が少なかった超長期債は売りに押され、20年182回債の利回りは2014年10月以来の水準となる1.320%まで上昇した。

<短国市場>

3M入札は投資家需要に支えられ、月前半～半ばは-0.14%台～-0.15%台で推移した。セカンダリー市場では-0.17%台～-0.19%台で取引されたが、16日入札の3M1127回債は最高落札利回りが-0.13%台に流れる低調な結果となった。入札後は-0.15%台で推移したが、年末に向けた担保需要が根強く、月末に掛けては-0.180%まで金利低下した。6M1125回債は3Mの好需給を背景に堅調な入札となった。落札不明額も多く、入札後は-0.14%台～-0.15%台で取引されたが、月後半は投資家需要が乏しく-0.12%台に上昇し終えた。1Y1128回債は投資家需要が限定的で低調な入札となった。最高落札利回りは2022年2月以来の-0.04%台となり、出合いなく取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債は前回（9月債）比+14.0bpワイド化し国債カーブ+24.0bp、10年地方債は11月18日起債の横浜市債対比で4.0bpワイド化し同+29.0bp、5年地方債は前月比同水準の同+12.0bpで条件決定した。10年政保債は供給量が限定的なことから販売が進み、10年地方債はスプレッドが実勢水準並みとなり無難に消化された。既発債は、スプレッド拡大への不安感は逡減し需給は改善傾向となった。社債は、大型起債もあり発行額は1兆8,379億円と高水準だった。SDGs債関連では、いずれも発行体として初めて、雪印メグミルクがグリーンボンドを、森永製菓がサステナビリティボンドを起債し、東急、資生堂がサステナビリティ・リンク・ボンドを、西部ガスホールディングスがトランジションボンドを起債した。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#368	0.250(1日)	0.245(9日)	0.480(21日)	0.410(30日)
#367	0.235(1日)	0.230(8日)	0.470(21日)	0.425(30日)
#358	0.200(1日)	0.185(2日)	0.465(29日)	0.455(30日)
#154(5Y)	0.100(1日)	0.100(1日)	0.260(20日)	0.225(30日)
#182(20Y)	1.120(1日)	1.060(9日)	1.320(29日)	1.290(30日)
#1119-#1125 TDB(6M)	-0.112(8日)	-0.147(8日)	-0.112(8日)	-0.147(8日)
#1123-#1127 TDB(3M)	-0.170(2日)	-0.250(16日)	-0.150(20日)	-0.180(29日)